

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 3 号 〇●〇

平成 24 年 7 月

発行：教育企画課・教育指導課

練馬区内の小・中学校では、さまざまな小中一貫教育の取組が行われています。「ねりま小中一貫教育レポート」では、小中一貫教育の取組を随時報告します。

第3号では、小中一貫・連携教育研究グループのひとつである「旭丘小学校」「小竹小学校」「旭丘中学校」の取組を紹介します。

小中連携では、日程調整が最初の壁となりますが、3校でスケジュールを合わせるのはさらに大変です。そこで、無理に3校で集まるのではなく、旭丘小＝旭丘中では算数の乗り入れ授業と国語の課題改善カリキュラム研究、小竹小＝旭丘中では算数の課題改善カリキュラム研究、旭丘小＝小竹小で小小交流、というふうに工夫して連携の取組を進めています。

◆週1回の乗り入れ授業で、旭丘中の先生が旭丘小6年生に算数を教えています

旭丘小6年生38人は、毎週火曜日の1時間目に、隣の旭丘中の教室で算数の授業を受けています。1学級を2分割して、旭丘中の数学の先生が1名ずつ入ります。

小学6年生の算数の授業は、週に5時間あります。そのうち週1時間は中学の先生が中心となって教えています。新学習指導要領で昨年から小学校に移行してきた文字式や比などの単元を取り出して、中学の先生に教えてもらうようにしています。

毎週、乗り入れ授業で教えている中学の先生方は、今まで教えたことのない小学6年生に対して、いかに分かりやすく教えればいいのかを考えながら、時間をかけて授業準備を行い、さらに毎回、授業後には、小学校の先生との打合せを密に行っています。

小学生に分かりやすいよう丁寧な説明をしつつ、中学校の指導の良さを生かすように、子供たちの理解度にあわせて、多くの練習問題に取り組みさせるなど、さまざまな工夫をして授業を進めています【写真⑥】。



◆課題改善カリキュラムの研究も進めています

6～7月にかけて、小竹小の算数研究授業に旭丘小（6/20）や旭丘中（7/12）の



先生方が参加し、旭丘小の国語研究授業に旭丘中の先生が参加（7/2）しました。小竹小では「分数」をテーマに研究を進めており【写真⑤=分数トランプ】、講師の荒木先生からは、「小学校では分数を『量』でとらえるが、中学校では分数は『数』である。小学校のうちに『量』

から『数』へ意識して変えてやらなければならない」とお話がありました。講義を聞いた先生方から「5・6年の授業では、分数を数として捉えることを意識して教えないと、中学へ行ってから子供たちが困るとわかった」との声が聞かれました。

◆移動教室で、小小連携（小学校同士の連携）に取り組めます

旭丘小は全学年が単学級で、小竹小も2・4・6年は単学級です。単学級の子供たちはクラス替えがないため、人間関係が固定化しがちです。集団を多様化させるためにも小小連携が有効である、との考えのもと、旭丘小と小竹小の5年生が移動教室（下田）へ一緒に行くことにしました。

移動教室に行く前に、お互いの顔と名前を覚えて仲良くなろうと、7月17日（火）5時間目に旭丘小の体育館で顔合わせ会を行いました。小竹小5年生（在籍52人）と旭丘小5年生（在籍21人）が、自己紹介やゲームなどをして一緒に過ごしました【写真⑥】。



子供たちは、事前に自分の顔写真を貼った自己紹介カードを用意して、好きな食べ物や得意な授業のことを書いておき、相手校の先生に渡していました。

7月20日（金）には、小竹小のプールで、旭丘小・小竹小の5・6年生が合同で着



衣泳を行いました。当日は、あいにくの肌寒さのなか、小竹小の先生の号令のもと、服を着たまふ浮かぶ方法などを一緒に練習しました【写真⑦】。

5年生の移動教室は、11月5日～7日です。移動教室での合同の取組がどんな様子だったか、小中一貫教育フォーラムでの発表が楽しみです。